

お知らせ

会長講演・表彰式のお知らせ

会長 丸岡啓二

下記により、会長講演および表彰式を行います。奮ってご出席下さいますようお願い申し上げます。

日 時 2026年3月18日(水) 13時00分～15時10分

会 場 日本大学理工学部 船橋キャンパス (13号館 1325教室)

※日本化学会第106春季年会 会場内

○会長講演 (13時00分～13時30分)

「日本化学会の若手高度人材育成事業」

2024, 2025年度会長 丸岡 啓二

○表彰式 (13時40分～15時10分)

1. 名誉会員証の贈呈

2. 日本化学会賞の贈呈

3. 学術賞の贈呈

4. 進歩賞の贈呈

5. 女性化学者奨励賞の贈呈

6. 化学技術賞の贈呈

7. 技術進歩賞の贈呈

8. 化学教育賞の贈呈

9. 化学教育有功賞の贈呈

10. 化学技術有功賞の贈呈

11. 長倉三郎賞の贈呈

12. 化学遺産認定証の贈呈

13. 化学普及活動功労者表彰

14. PCCP Prize の表彰

○懇親会

日 時 3月18日(水) 17時40分～(17時20分開場)

会 場 同キャンパス 食堂2階「ファラディホール」

※懇親会の詳細は本会ウェブサイト「第106春季年会(2026)」をご覧ください。

<https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/csj106th>

2025年度日本化学会名誉会員決定のお知らせ

会長 丸岡啓二

2025年度の名誉会員として、下記の方について理事会において規定に基づき推戴が承認されました。

なお、表彰式は第106春季年会会期中の3月18日(水)に日本大学理工学部船橋キャンパスにおいて行われる予定です。

2025年度日本化学会名誉会員推戴者(敬称略)

澤本 光男：中部大学 顧問, 京都大学 名誉教授

碓合 憲三：東京理科大学 名誉教授

吉田 久美：愛知淑徳大学食健康科学部 教授, 愛知工業大学 客員教授, 名古屋大学 名誉教授

2025年度日本化学会フェローについてお知らせ

会長 丸岡啓二

2025年度の「日本化学会フェロー」について、お知らせいたします。

2025年度日本化学会フェロー(敬称略)

該当者なし

2022年度「吉野彰研究助成対象者」選考結果

吉野彰研究助成委員会

「吉野彰研究助成選考小委員会」による厳正な選考・審査と「吉野彰研究助成委員会」での審議を経て、2022年度の吉野彰研究助成金の交付対象者は「該当無し」とすることを、理事会において承認、決定しました。

日本化学会『第 17 回化学遺産認定』のお知らせ

化学遺産委員会

2008 年 3 月発足した「化学遺産委員会」では、2009 年度から事業の一環として新たに、世界に誇る我が国化学関連の文化遺産を認定し、それらの情報を社会に向けて発信する『化学遺産認定事業』を開始しております。今まで 16 回 72 件を認定し、化学遺産認定証を贈呈し顕彰いたしました。

本年度第 17 回につきましても、認定候補を本会会員のみならず会員以外からも広く公募いたしました。その後、応募のあった候補を含め傘下の「化学遺産調査小委員会」において、委員が認定候補の具体的な内容、現況、所在、歴史的な意義などを実地調査し、調査結果に基づき慎重に検討の上 3 件を認定候補として選考いたしました。さらに、化学遺産委員会では、委員会関係者とは異なる学識経験者で構成された「化学遺産認定小委員会」に審議を諮問いたしました。その結果、3 件の候補はいずれも世界に誇る我が国化学関連の文化遺産としての歴史的価値が十分認められ、化学遺産候補としてふさわしいとの最終答申をいただきました。

この答申を受け、化学遺産委員会では 3 件の関係先に「化学遺産」として認定・登録することについてご承諾をいただき、理事会に諮りました。その結果、認定候補 3 件いずれも化学遺産として認定することが全会一致で承認されました。今回承認された 3 件は下記のとおりです。

●認定化学遺産 第 073 号

『直火真空蒸留釜（通称：地球釜）』

国内最初期の可塑剤生産に使用されていた直火炊方式の銅製真空蒸留釜

大八化学工業株式会社 大阪技術開発センター 所蔵
プラスチックに柔軟性を与える可塑剤は当初セルロイド工業とともに発展してきた。欧米ではセルロイドの可塑剤である樟脳に代わる可塑剤の研究が進められていた。

1919（大正八）年に創業した大八化学が、1935 年に日本で初めてリン酸エステル系可塑剤（TCP：トリクレジルホスフェート）の生産に成功した。可塑剤の量産化を進めるため、大八化学の創業者田上寛伍が実験器具の三つ口フラスコを参考に大田銅工所の職人に作成を依頼し、直火炊方式の銅製真空蒸留釜を製作した。容積は 380 リットル（重量は約 300 kg）で 3 基製作されたうちの 1 基が残されている。

本蒸留釜を用い、TCP をはじめフタル酸系可塑剤等の蒸留を要する商品のマルチ生産に使用されていた。火源は都市ガスのダブルリングバーナー式直火型で、バルブの開閉により火源の大きさをコントロールしていた。ピストン式ポンプにより真空状態を生じさせ、当初の真空度は 10～20 mmHg 程度であった。その後、1949 年に装置は銅製からステンレス製へと移行した。現在は連続蒸留であり、真空度は 0.1 mmHg まで進歩している。

ちなみに、「可塑剤」という名称も大八化学によるものである。「直火真空蒸留釜（通称：地球釜）」は、我が国における可塑剤の工業生産黎明期の歴史を伝える貴重な装置として、化学遺産として認定するにふさわしい。

●認定化学遺産 第 074 号

『世界に先駆けた溶媒循環型分取 GPC 装置』

リサイクル分取 GPC LC-08 型

日本分析工業株式会社 所蔵

クロマトグラフィーの歴史は 20 世紀初頭ロシアの植物学者ツヴェットが植物色素の分離法を発見したことに始まり、化学の進歩に不可欠な技術として発展してきた。特に

カーランドによる完全多孔性充填剤はカラム性能を飛躍的に向上させ、今日的高速液体クロマトグラフィーによる高速・高分離そして微量分析化学の礎となっている。

ほぼ同時期に開発され 1973 年に上市された本装置は、有機合成された化合物の分離精製を飛躍的に短時間化、簡易化した画期的な分取用クロマトグラフである。非シリカ系 GPC カラムを搭載し、精製したい目的成分を同一カラム内で分離するまで循環させる方法により、一度に最大 1 g の疎水性化合物の分離・精製を可能にした。

LC-08 型およびその後継モデルは、ノーベル化学賞受賞者（野依良治氏、北川進氏）をはじめ多くの著名な研究者の研究室に納入され、その研究成果の一翼を担うに至っている。

有機合成化学、天然物化学の進歩に多大な貢献をもたらした続ける「溶媒循環型分取 GPC 装置」の原型である本装置は化学遺産認定にふさわしい。

●認定化学遺産 第 075 号

『北海道大学総合博物館所蔵のチセリウス電気泳動装置』 日立製作所製 HTB-2A 型チセリウス電気泳動装置

北海道大学総合博物館 所蔵

電気泳動法の化学・医学・生物学領域への応用のさきがけとなったのは、1937 年のティセリウスが考案した電気泳動装置とそれを用いた血清タンパク質の研究であった。

1946 年東京大学医学部生化学教室の児玉桂三教授がこの装置に着目し、同研究室助手の平井秀松氏はティセリウスの論文をもとに、同大学理学部物理学科の小穴純助教授（専門：光学）、島尾和夫氏（当時学生）の援助を得て装置を自作し、1947 年末に完成させた。装置とこれによる血清を主とする体液タンパク質の分析結果を、翌 1948 年 4 月に東京大学で開催された日本生化学会総会の特別講演で平井氏が報告、同時に研究室で装置が公開された。これを契機に日立製作所が装置の製作と販売を企画し、東京大学の指導のもと 1949 年 1 月に HT-A 型チセリウス電気泳動装置、翌 1950 年 4 月にその改良型である HT-B 型が市販された。

本装置は1964年に北海道大学医学部生化学教室教授に就任した平井秀松氏の研究室で使われていたHT-B型の後継機であり完成型である1965年製の日立製作所製HTB-2A型チセリウス電気泳動装置である。同氏は1983年に北海道大学を定年退官後、(財)基礎腫瘍学研究会腫瘍研究所を創設し初代所長に就任したが、本装置も同研究所に移設された。その後門下の西信三氏らによって北海道大学医学部生化学教室において保管され、さらに多くの関係者の努力で北海道大学総合博物館に移設、展示されて現在に至っている。

血清タンパク質分画研究の基礎を築いたチセリウス電気

泳動装置を今に伝える貴重なものとして、化学遺産として認定するにふさわしい。

以上

なお、今回認定された3件の関係者には、第106春季年会会期中の表彰式で『化学遺産認定証』(楯)を贈呈する予定です。また、委員会では、4月4日(土)13時30分~16時の予定で『化学遺産市民公開講座』を開催し上記3件の内容をわかりやすくご紹介する予定です。奮ってご参加下さい。

第19回化学遺産市民公開講座

主催 日本化学会化学遺産委員会
共催 化学史学会

化学遺産委員会では、2009年度から化学関連の文化遺産あるいは産業遺産の中で特に歴史的に高い価値を有する貴重な資料を認定する『化学遺産認定制度』を開始し、これまでに16回72件を認定・顕彰しました。2025年度も前年度同様に化学遺産認定候補を一般市民・会員諸氏より公募するとともに、委員会でも認定候補として相応しいものを選定し、対象候補件の調査・検証作業を行い、3件を認定することになりました。今回の市民講座では、本年度の化学遺産として認定した3件の具体的な内容をご紹介します。

日 時 2026年4月4日(土) 13時30分~16時

開催形式 ハイブリッド開催

現地会場：化学会館（東京都千代田区神田駿河台1-5）

オンライン：Zoom

※申込者への限定公開にて1週間程度のオンデマンド配信予定。

詳細は申込者へメールにてご案内します。

プログラム

13:30~13:35 開会挨拶 (化学遺産委員会委員長) 宮村一夫氏

13:35~14:15 直火真空蒸留釜 (通称：地球釜) (大八化学工業株式会社取締役生産部門担当) 中村伸氏
(休憩10分)

14:25~15:05 世界に先駆けた溶媒循環型分取GPC装置 (日本分析工業株式会社代表取締役) 大栗直毅氏
(休憩10分)

15:15~15:55 北海道大学総合博物館所蔵のチセリウス電気泳動装置 (防衛医科大学校・再生発生学講座/共同利用研究施設講師) 三浦賢司氏

15:55~16:00 閉会挨拶 (化学遺産委員会委員長) 宮村一夫氏

参加費 無料

申込方法 Peatix ウェブサイトよりお申込み (<https://dai19-kagakuisan.peatix.com>)

参加申込締切 4月3日(金) 正午

問合せ先 日本化学会 企画部 田中/河瀬

〒101-8307 千代田区神田駿河台1-5 E-mail: chemarch@chemistry.or.jp

「R&D 懇話会」からのお知らせ

産学交流委員会

産学交流委員会R&D懇話会では会員と講師、および会員相互の情報交流や親睦を図ることを目指し、「R&D懇話会定例会」と「技術開発フォーラム」を企画、実施しております。2026年度の『懇話会法人会員』を下記の通り募集しますので、ぜひともこの機会にご入会いただければ幸いです。

■活動内容

産学交流委員会 懇話会企画小委員会では、先端化学技術等に関する関心の高いテーマを選び、第一線で活躍されている研究者・技術者・経営者などを講師に迎え R&D 懇話会を開催しております。2026 年度は、オンライン参加型で講師 2 名を基本とする「R&D 懇話会」を 5 回、さらに現地とオンラインのハイブリッド方式による「技術開発フォーラム」を 1 回開催する予定です。このほか、施設見学会や意見交換会などを 2 回実施し、年間で合計 8 回程度の開催を見込んでおります。オンラインに加え、現地での開催も取り入れることで、参加者同士の技術交流の機会をより一層充実させてまいります。詳細につきましては、ウェブサイトにてご案内いたします。

■企画内容のご紹介

- ① R&D 懇話会定例会：講師 2 名によるテーマを絞った講演会を開催予定です。2026 年度前半から中頃に予定しているテーマは『データセンター見学会』、『半導体材料』、『カーボンニュートラル』、『PFAS 代替技術』、『レアアース』等です。年度後半も皆様の関心の高いテーマを検討しております。日程、詳細が確定しましたらウェブサイト等でご案内します。
- ② 技術開発フォーラム：技術開発に焦点をあてた産業志向の講演会を実施しております。
<https://www.chemistry.or.jp/event/sangakuEvent/index.html>

■入会のご案内

入会をご希望の場合には、本会ウェブサイト内の申込フォームに必要事項を記入の上、E-mail にてお申込みください。折り返し年会費お支払いに関してご案内いたします。

【法人会員】 年会費 70,000 円 (入会金不要)*

※法人会員企業に所属する社員の皆様を対象に、Zoom の上限人数 (500 名) の範囲内でオンライン講演会にご参加いただけいただけます。もし当日ご参加できない場合でも、後日 YouTube の見逃し配信をご視聴可能です。

※ハイブリッド開催の場合、現地の会場定員には限りがあります。

※現地見学会につきましては、貸切バス代や委託費などの諸費用が発生するため、別途参加費を頂戴いたします。なお、会員の皆様にはできる限りご負担が少なくなるよう、可能な限り低料金での提供に努めてまいります。

■お問合せ先

日本化学会 企画部 田口/河瀬 E-mail: sangaku@chemistry.or.jp

安田修祥・裕美子 若手化学者留学支援事業 2026 年度募集要項

安田修祥・裕美子 若手化学者留学支援事業委員会

故安田修祥氏の遺志に従い、化学の発展と後進の育成を目的として、安田裕美子氏およびクラウドファンディング支援金からの寄付金を原資とする基金提供の申し出があり、これを基に、公益社団法人日本化学会 (以下「本会」という) に「安田修祥・裕美子 若手化学者留学支援事業」(以下「本事業」という) が創設されました。本事業は、若手化学者が積極的に米国での研究留学に挑戦する際の費用を助成するものです。本会の研究交流部門内に設置された「安田修祥・裕美子 若手化学者留学支援事業委員会」が、本事業の運営を担当しております。以下のとおり支援対象者の募集いたしますので、皆様のご応募を心よりお待ち申し上げます。

1. 申請者の条件

- (ア) 本会の会員である者。
- (イ) 日本の大学もしくは大学院 (以下「大学等」という) に所属している者または日本の大学等を卒業して米国の公認された大学等に在籍している者若しくは入学が決定している者。
- (ウ) 日本国籍を有する者。
- (エ) 主に有機化学を学んでいる者。

2. 支援金額および件数

支援金額は 100 万円/件で、年度当たりの支援する件数の上限は特に定めない。

3. 支援金の使途

支援金の使途は、渡航費や滞在費等の留学に当たって必要とされる経費を対象とする。

4. 応募方法

所定の申請書に必要事項を記入し、本会事務局宛に電子メールで提出する。申請書の受付期間は、5 月末日までとする。

5. 選考および通知

本会で所定の選考、審議等を経て決定し、申請者に電子メールにて 6 月中旬に通知する。

6. 支援金の交付
7月中旬に交付する。
7. 報告
(ア) 支援対象者は、別途、留学実施報告書(以下「報告書」という)を、支援金交付日から1年以内に、本会に提出しなければならない。
(イ) 報告書の内容は、我が国の化学分野研究の発展や本事業のさらなる普及のため、本会のウェブサイトや機関誌等で広く公開することができる。
(ウ) 支援対象者は、報告書提出後、その後の研究活動等についてイベントでの発表や機関誌への寄稿等、本会が主催する活動への協力依頼があった際には、特段の事情がない限りこれを受けるものとする。
(エ) 支援対象者が留学期間中の研究成果を発表する場合は、本事業により支援を受けたことを必ず表示しなければならない。支援金の表示は、「安田修祥・裕美子 若手化学者留学支援金/Nobuyoshi & Yumiko Yasuda Memorial Scholarship of The Chemical Society of Japan」とする。
(オ) 報告書の収支報告に記載した内容の証書類は、支援金交付日から2年間、保管しなければならない。
8. 助成金交付の決定を受けた後に計画等に大幅な変更を行うときは、本会の判断を仰ぐものとする。
9. 委員会は、必要に応じて、支援対象者に対し、報告書の収支報告の内容について報告を求め、監査することができる。
10. 支援金の対象者が、次の各号のいずれかに該当したときまたはその事実が判明したときは、本会は、支援金の交付決定を取り消し、交付を中止し、支援対象者に対してすでに交付した支援金の一部または全部の返還を求めることができるものとする。
①虚偽の申し出または報告を行ったとき。
②対象となる留学が中止になったとき。
③その他「日本化学会会員行動規範」および「行動の指針」に反する行為が認められたとき。

申請書の送付先・問合せ先

公益社団法人 日本化学会 企画部
安田修祥・裕美子 若手化学者留学支援事業 係
E-mail: ryugaku@chemistry.or.jp
〒101-8307 東京都千代田区神田駿河台 1-5

会員委員会からのお知らせ

【日本化学会への入会勧誘のお願い】

日本化学会の会員数は残念ながら減少が続いております。力強い化学会を目指すために、なにより会員増強が大きな意味を持つと考えております。

2016年6月16日から中高生会員制度を開始しました。身近な方で入会されていない方がおられましたら、積極的に入会をお勧め下さい。会員の皆様のご協力を心よりお願い申し上げます。これまで新入会員の情報を紙面に掲載しておりましたが、今後は当会のホームページに掲載方法を変更させていただきます。詳細につきましては、ホームページにてご案内いたしますので、ご確認いただけますようお願い申し上げます。

【会員訃報のお知らせ：2025/11/16-2025/12/15】

4名の方の訃報に接しました。本会はここに謹んで哀悼の意を表すとともにご冥福をお祈りいたします。

尾関 徹 小池 芳雄 沢井 政信 須田 秀明

化学だいすきクラブ事業醸金者ご芳名

(令和7年12月16日～令和8年1月15日)

ご芳志を賜りました下記の方々に対し、厚くお礼申し上げます。

○20,000円 中村 聡
○10,000円 桐村光太郎 堀江 幸司 若林 文高 八木 繁幸
○5,000円まで 神宮 久香

化学遺産事業醸金者ご芳名

(令和7年12月16日～令和8年1月15日)

ご芳志を賜りました下記の方々に対し、厚くお礼申し上げます。

○300,000円 桐村光太郎
○50,000円 若林 文高
○5,000円まで 神宮 久香

「化学振興」活動醸金者ご芳名

(令和7年12月16日～令和8年1月15日)

ご芳志を賜りました下記の方々に対し、厚くお礼申し上げます。

- 10,000円 若林 文高
○5,000円まで 神宮 久香 井口 一成

150周年記念事業醸金者ご芳名

(令和7年12月16日～令和8年1月15日)

ご芳志を賜りました下記の方々に対し、厚くお礼申し上げます。

- 30,000円 若林 文高

「化学と教育」誌 目次紹介と購読方法

化教誌編集委員会

1. 目次紹介 (第74巻第3号)

ヘッドライン：貴ガスの今昔物語

その他に, [実験の広場], [新・講座] など。

※内容は変更になる場合があります。

2. 購読方法

〔個人〕

- 1) 日本化学会会員の方で, 「化学と教育」誌を追加購読ご希望の場合は, 5,400円(年額)をお支払いいただくことで購読いただけます。追加購読をご希望の場合には【お問合わせフォーム】からお申込み下さい。

【お問合わせフォーム】

<https://form.csj.jp/view.php?id=158655>

フォーム入力方法 (ご参考)

- ①【お問合わせ内容の種類 - Subjects】: 「全般について」を選択
②【お問合わせ内容詳細 (全般) - Sub-subjects】: 「【会誌】会誌の追加購読申込」を選択

- ③【追加購読誌 - Journal Subscriptions】: 「化学と教育」をチェック

*以降は必須事項をご入力下さい。

- 2) 化学または化学工業に関係のある学校教育に従事する方で購読希望の方は, 教育会員(年間会費9,000円)として入会されますと化学と教育誌の無料配布が受けられます。また教育学生会員の方は年間会費が4,800円です。入会申込は, 当会ウェブサイトの「日本化学会への入会案内」(<https://www.chemistry.or.jp/application/admission/index.html>) から行って下さい。

〔団体〕

学校, 図書館, 官公庁等, 団体として購読することもできます。公共会員(年間9,000円)に入会されますと無料配布が受けられます。入会申込書は下記宛にご請求下さい。
請求先: 101-8307 東京都千代田区神田駿河台 1-5

日本化学会総務部会員 G

電話(03)3292-6169 ※AIにてご用件を承ります。

E-mail: member-support@chemistry.or.jp